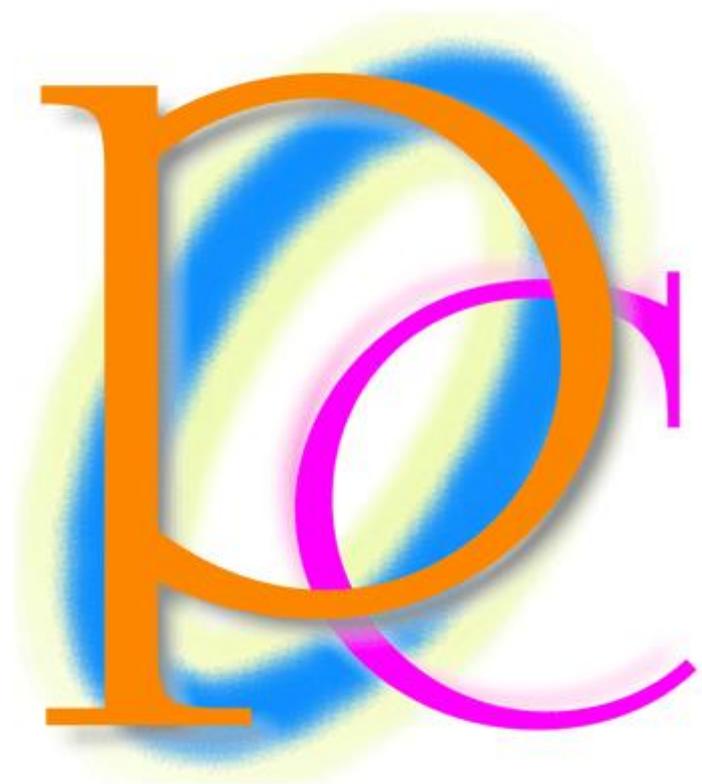


(Windows 10 Version)

Excel-2019-Level 04

- 応用編 -



体系学習★初歩からのPCテキスト

第 01 章: 範囲名の利用	6
01 章 01 節… 名前の定義	6
01 章 02 節… [名前ボックス]を使って範囲名・名前の定義	7
01 章 03 節… 範囲名を使った計算式の作成 1	8
01 章 04 節… 範囲名を使った計算式の作成 2	10
01 章 05 節… 範囲名の編集	11
01 章 06 節… 範囲名と絶対参照/選択範囲から作成	14
01 章 07 節… 範囲名と絶対参照の研究	15
01 章 08 節… 名前の引用	17
01 章 09 節… 複数の範囲を持つ範囲名	18
01 章 10 節… まとめ	19
01 章 11 節… 練習問題	20
第 02 章: COUNTIF 関数の基本	22
02 章 01 節… COUNTBLANK 関数の利用	22
02 章 02 節… COUNTIF 関数の利用	24
02 章 03 節… COUNTIF 関数とは(概要・かうんと いふ)	26
02 章 04 節… SUMIF 関数	27
02 章 05 節… SUMIF 関数とは(概要・さむ いふ)	29
02 章 06 節… AVERAGEIF 関数	30
02 章 07 節… 練習問題	31
第 03 章: VLOOKUP 関数・1 [近似値検索]	34
03 章 01 節… VLOOKUP 関数の構想・ある値から別の値の割り出し	34
03 章 02 節… VLOOKUP 関数の使用	35
03 章 03 節… 作成の復習	37
03 章 04 節… VLOOKUP 関数とは(概要・ふい るっくあつぷ)	39
03 章 05 節… 練習問題	40
第 04 章: VLOOKUP 関数・2 [完全一致検索]	42
04 章 01 節… 従来どおりの VLOOKUP 関数	42
04 章 02 節… 近似値のテスト	43
04 章 03 節… 完全一致検索を採用する	46
04 章 04 節… 完全一致検索の効果	48
04 章 05 節… 完全一致検索の VLOOKUP 関数を作成(練習)	49
04 章 06 節… 完全一致検索の特徴/対応表のキー列(最左列)は文字でもよい	51
04 章 07 節… 条件付き書式を使いエラー値を非表示にする	52
04 章 08 節… 完全一致検索の VLOOKUP 関数とは(概要)	54
04 章 09 節… 練習問題	55
第 05 章: 特殊な並べ替え	57
05 章 01 節… 外部データからの取り込み・TRIM 関数で空白を削除	57
05 章 02 節… [区切り位置]を指定してデータを分割する	60
05 章 03 節… 連続データ作成の復習	62
05 章 04 節… ユーザー設定リストへの追加	63
05 章 05 節… セルからユーザー設定リストに登録する	65
05 章 06 節… ユーザー設定リストからの削除	66

05章07節… アイテムリストの作成・重複(ちょうふく)の削除	67
05章08節… ユーザー設定リスト順に並べ替える	68
05章09節… 列方向の並べ替え	72
05章10節… まとめ	74
05章11節… 練習問題	75
第06章: ピボットテーブル【Pivot table】1	78
06章01節… ピボットテーブルの作成と利用	78
06章02節… ピボットテーブルの調整	81
06章03節… ピボットテーブルオプション 空白セルに表示する値	82
06章04節… ピボットテーブルのデザイン	83
06章05節… 集計の方法を変える(レコード数を調べる)	84
06章06節… フィールドの削除・入れ替え	85
06章07節… 数値フィールドに一括で表示形式を設定する	86
06章08節… 日付フィールドの自動グループ化	87
06章09節… 日付フィールドのグループ解除	89
06章10節… ピボットテーブルの更新と範囲拡張	91
06章11節… まとめ	94
06章12節… 練習問題	94
06章13節… 練習問題	96
第07章: 文字列操作関数	99
07章01節… 全角にする JIS 関数・半角にする ASC 関数	99
07章02節… 小文字にする LOWER 関数・大文字にする UPPER 関数	101
07章03節… 先頭文字のみを大文字にする PROPER 関数	103
07章04節… 左の一部を切り取る LEFT 関数・右の一部を切り取る RIGHT 関数	104
07章05節… 任意の位置から文字を抜き出す MID 関数	106
07章06節… LEFT 関数・RIGHT 関数・MID 関数(概要)	107
07章07節… 文字数を数える LEN 関数	108
07章08節… TEXTJOIN 関数	109
07章09節… 練習問題	111
第08章: 切り捨て・切り上げ・四捨五入と桁の指定	113
08章01節… 四捨五入・ROUND 関数の復習	113
08章02節… 切り上げをする ROUNDUP 関数/切り捨てをする ROUNDDOWN 関数	114
08章03節… [桁数]にプラスの数を指定する(正の数)	115
08章04節… [桁数]にマイナスの数を指定する(負の数)	116
08章05節… 練習問題	117
第09章: 関数のネスト	119
09章01節… 復習: 平均値を出してそれを切り捨て処理する	119
09章02節… 関数のネスト	121
09章03節… もう一度関数のネストをやってみる	123
09章04節… 利用関数の変更	126
09章05節… まとめ	127
09章06節… 練習問題	127
第10章: 3択以上の IF 関数	129

10章 01 節… 3つの場合分け	129
10章 02 節… 4つ以上の場合分け	131
10章 03 節… 3つ以上の場合分け(まとめ).....	134
10章 04 節… 文字を使って調査	134
10章 05 節… 練習問題	136
第 11 章: HLOOKUP 関数とエラーの回避(IFERROR)	137
11章 01 節… HLOOKUP 関数(対応表が右に展開・えいち るつくあつぶ)	137
11章 02 節… エラーの確認	138
11章 03 節… IFERROR 関数でエラーの回避	139
11章 04 節… 完成済みの式に IFERROR 関数をかける	140
11章 05 節… IFERROR 関数とは(概要・いふえらー).....	141
11章 06 節… まとめ	141
11章 07 節… 練習問題	142
第 12 章: さまざまなグラフ	145
12章 01 節… レーダーグラフの作成	145
12章 02 節… 軸の調整と補助目盛	146
12章 03 節… 行/列の切り替え(復習).....	149
12章 04 節… セル内にグラフを表示するスパークラインの作成	151
12章 05 節… スパークラインの軸	153
12章 06 節… スパークラインの調整	153
12章 07 節… 特殊なグラフ 1・ツリーマップ	155
12章 08 節… 特殊なグラフ 2・パレート図	157
12章 09 節… まとめ	159
12章 10 節… 練習問題	160
12章 11 節… 練習問題	162

…  →操作の説明

…  →補足説明

- 記載されている会社名、製品名は各社の商標および登録商標です。
- 本書の例題や画面などに登場する企業名や製品名、人名、キャラクター、その他のデータは架空のものです。現実の個人名や企業、製品、イベントを表すものではありません。
- 本文中には™,®マークは明記しておりません。
- 本書は著作権法上の保護を受けております。
- 本書の一部あるいは、全部について、合資会社アルファから文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することを禁じます。ただし合資会社アルファから文書による許諾を得た期間は除きます。
- 無断複製、転載は損害賠償、著作権法の罰則の対象になることがあります。
- この教材は Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。
 - ◆ Version No:excel-2019-04-応用-201014
 - ◆ 著作・製作 合資会社アルファ
〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 118-2 中山 NS ビル 6F
 - ◆ 発行人 三橋信彦
 - ◆ 定価 ー円

第01章:範囲名の利用

01章01節…名前の定義

(01) 以下のような表を作成してください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合	
3		市川	¥1,100			工藤	¥4,200			馬場	¥1,900		
4		広瀬	¥700			山下	¥2,600			村木	¥2,400		
5		星野	¥5,000			岩瀬	¥1,400			木之下	¥1,800		
6						高野	¥900			熊沢	¥2,500		
7						江沢	¥3,400						
8						北岡	¥2,900						
9													
10		東京計				個人平均							
11		大阪計				総合計							
12		福岡計											
13													

(02) セル C3:C5 に「東京」という名前(範囲名)を設定します。選択してから【数式】[名前の定義]を使うと、セル範囲に特別な名前を付けて登録しておくことができます。

2. 【数式】[名前の定義]

1. C3:C5 を選択

(03) 「C3:C5」を「東京」という名前で登録・OK しましょう。

「C3:C5」を範囲名「東京」で登録

(04) C3:C5 を選択していると画面左上の[名前ボックス]に「東京」と表示されます。

C3:C5 を選択していると[名前ボックス]に範囲名である「東京」が表示される

(05) 続けて G3:G8 に「大阪」という範囲名を付けてください。

大阪		: x ✓ 4200											
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合	
2													
3		市川	¥1,100			工藤	¥4,200						
4		広瀬	¥700			山下	¥2,600						
5		星野	¥5,000			岩瀬	¥1,400			木之下	¥1,800		
6						高野	¥900			熊沢	¥2,500		
7						江沢	¥3,400						
8						北岡	¥2,900						
9													

G3:G8 を「大阪」という範囲名で登録

01章02節…[名前ボックス]を使って範囲名・名前の定義

(01) 今度は別の方法を用いて範囲名「福岡」を K3:K6 に設定します。
選択してから[名前ボックス]をクリックしてください。

K3 I		: x ✓ 1900											
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1											福岡支店	割合	
2													
3		市川	¥1,100			工藤	¥4,200				馬場	¥1,900	
4		広瀬	¥700			山下	¥2,600				村木	¥2,400	
5		星野	¥5,000			岩瀬	¥1,400				木之下	¥1,800	
6											熊沢	¥2,500	
7													
8						北岡	¥2,900						

2. 名前ボックスをクリック

1. K3:K6 を選択

(02) [名前ボックス]に「福岡」と入力してから確定・{Enter}します。
[名前ボックス]から[カーソル]が消えたら登録完了です。

福岡		: x ✓ 1900										
	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1			東京支店	割合								
2						大阪支店	割合				福岡支店	割合
3		市川	¥1,100			工藤	¥4,200				馬場	¥1,900
4		広瀬	¥700			山下	¥2,600				村木	¥2,400
5		星野	¥5,000			岩瀬	¥1,400				木之下	¥1,800
6											熊沢	¥2,500
7												
8						北岡	¥2,900					

[名前ボックス]に「福岡」と入力してから確定・{Enter}(カーソルが消えるまで)

(03) K3:K6 が範囲名「福岡」で登録されました。

福岡		: x ✓ 1900											
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合	
3		市川	¥1,100			工藤	¥4,200				馬場	¥1,900	
4		広瀬	¥700			山下	¥2,600				村木	¥2,400	
5		星野	¥5,000			岩瀬	¥1,400				木之下	¥1,800	
6											熊沢	¥2,500	
7													
8						北岡	¥2,900						

カーソルが消えるまで {Enter}したら登録完了

(04) 範囲名として登録されている場所は名前ボックスから簡単に[再選択]ができます。
範囲「大阪」を選択してみましょう。

福岡		: x ✓ 1900											
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合	
3		市川	¥1,100			工藤	¥4,200				馬場	¥1,900	
4											木之下	¥1,800	
5											熊沢	¥2,500	
6						高野	¥900						
7						江沢	¥3,400						
8						北岡	¥2,900						
9													

名前ボックスから範囲名「大阪」を選択

(05) 範囲「大阪」が再選択されました。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合	
3		市川	¥1,100			工藤	¥4,200			馬場	¥1,900		
4		広瀬	¥700			山下	¥2,600			村木	¥2,400		
5		星野	¥5,000			岩瀬	¥1,400			木之下	¥1,800		
6						高野	¥900			熊沢	¥2,500		
7						江沢	¥3,400						
8						北岡	¥2,900						
9													
10		東京計				個人平均							
11		大阪計				総合計							
12		福岡計											

【範囲名】を設定しておけば再選択が
たやすい(他のメリットは後述)

01章03節…範囲名を使った計算式の作成 1

(01) セル C10 に「=SUM(C3:C5)」を作成します。しかし Excel では「=SUM(東京)」とすることもできるのです。「C3:C5=東京」で範囲を登録してあるからです。まずは【数式】タブの[オート SUM][合計]ボタンで SUM 関数の作成を開始してみましょう。

【ホーム】タブから作成してもよい

(02) 自動的に仮の範囲が選択されます。

SUM 関数のカッコ内は[Delete]キーで消してください。

SUM 関数のカッコ内を消去

(03) 関数のカッコ内にカーソルがある状態で【数式】[数式で使用]をクリックすると、登録されている範囲名の一覧が表示されます。ここで「東京」を選択しましょう。

SUM関数のカッコ内にカーソルがある状態で【数式】(定義された名前)[数式で使用]「東京」

カッコの中に「東京」と直接入力してもよい

(04) 「=SUM(東京)」が完成しました。{Enter}で確定しましょう。

「東京」 = 「C3:C5」

{Enter}で確定

(05) 「=SUM(東京)→6800」が算出されました。

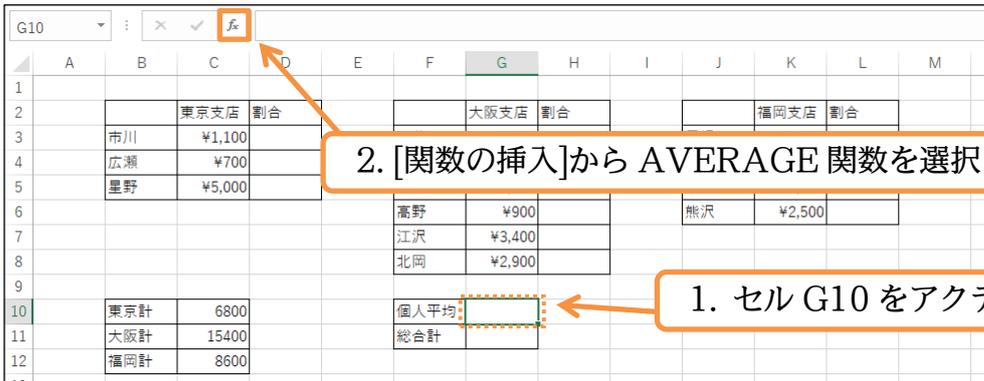
続けてセル C11 に「=SUM(大阪)」、セル C12 に「=SUM(福岡)」を作成してください。

セル C11 に「=SUM(大阪)」、
セル C12 に「=SUM(福岡)」を作成

(06) 「SUM・AVERAGE・MAX・MIN」といった集計関数の引数に[範囲名]を採用することができるのです。

01章04節…範囲名を使った計算式の作成 2

(01) 次は[関数の挿入]()⇒[関数の引数]ダイアログボックスを使ってセル G10(個人平均)へ「=AVERAGE(東京,大阪,福岡)」を作成します。複数の範囲を使う際は範囲をカンマ「,」で区切ります。なお「=AVERAGE(C3:C5,G3:G8,K3:K6)」と同じ意味になります。

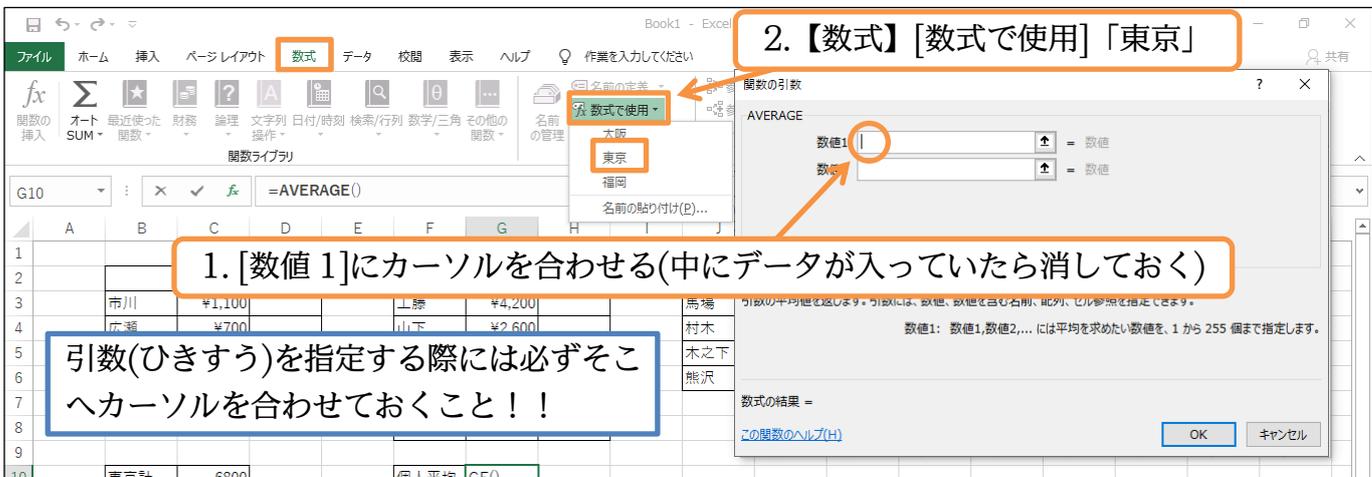


2. [関数の挿入]から AVERAGE 関数を選択

1. セル G10 をアクティブに

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合	
3		市川	¥1,100										
4		広瀬	¥700										
5		星野	¥5,000										
6						高野	¥900			熊沢	¥2,500		
7						江沢	¥3,400						
8						北岡	¥2,900						
9													
10		東京計	6800				個人平均						
11		大阪計	15400				総合計						
12		福岡計	8600										

(02) 引数[数値 1]にカーソルを合わせて【数式】[数式で使用]「東京」を選択します。



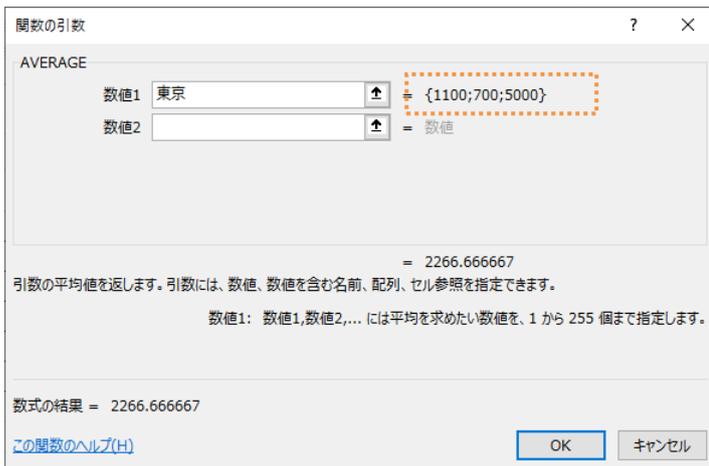
2. 【数式】 [数式で使用] 「東京」

1. [数値 1]にカーソルを合わせる(中にデータが入っていたら消しておく)

引数(ひきすう)を指定する際には必ずそこへカーソルを合わせておくこと!!

(03) [数値 1]が「東京」になりました。

なお「東京」は数値群「1100;700;5000」のことであると右側に表示されます。



関数の引数

AVERAGE

数値1 東京 = {1100;700;5000}

数値2 = 数値

= 2266.666667

引数の平均値を返します。引数には、数値、数値を含む名前、配列、セル参照を指定できます。

数値1: 数値1,数値2,... には平均を求めたい数値を、1 から 255 個まで指定します。

数式の結果 = 2266.666667

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

(04) 他の引数も指定します。[数値 2]を「大阪」・[数値 3]を「福岡」にします。設定後は OK します。



(05) 「=AVERAGE(東京,大阪,福岡)」が作成されました。各引数は「,」で区切られています。

G10		=AVERAGE(東京,大阪,福岡)												
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	
1														
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合		
3		市川	¥1,100			工藤	¥4,200			馬場	¥1,900			
4		広瀬	¥700			山下	¥2,600			村木	¥2,400			
5		星野	¥5,000			岩瀬	¥1,400			木之下	¥1,800			
6						高野	¥900			熊沢	¥2,500			
7						江沢	¥3,400							
8						北岡	¥2,900							
9														
10		東京計	6800			個人平均	2369.231							
11		大阪計	15400			総合計								
12		福岡計	8600											
13														

(06) セル G11 には「=SUM(東京,大阪,福岡)」を作成しましょう。

G11		=SUM(東京,大阪,福岡)												
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	
1														
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合		
3		市川	¥1,100			工藤	¥4,200			馬場	¥1,900			
4		広瀬	¥700			山下	¥2,600			村木	¥2,400			
5		星野	¥5,000			岩瀬	¥1,400			木之下	¥1,800			
6						高野	¥900			熊沢	¥2,500			
7						江沢	¥3,400							
8						北岡	¥2,900							
9														
10		東京計	6800			個人平均	2369.231							
11		大阪計	15400			総合計	30800							
12		福岡計	8600											
13														

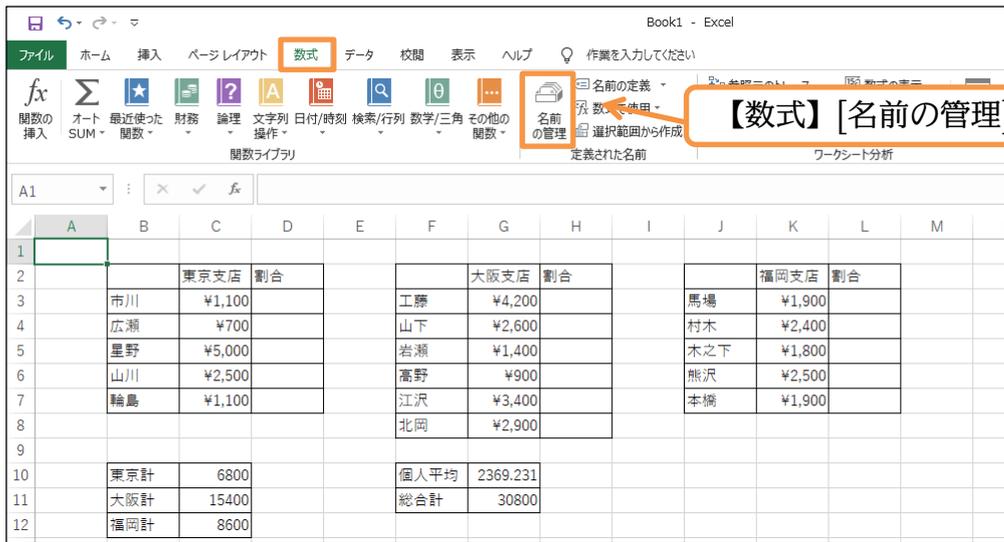
01章05節…範囲名の編集

(01) 東京支店と福岡支店にデータを追加してください。

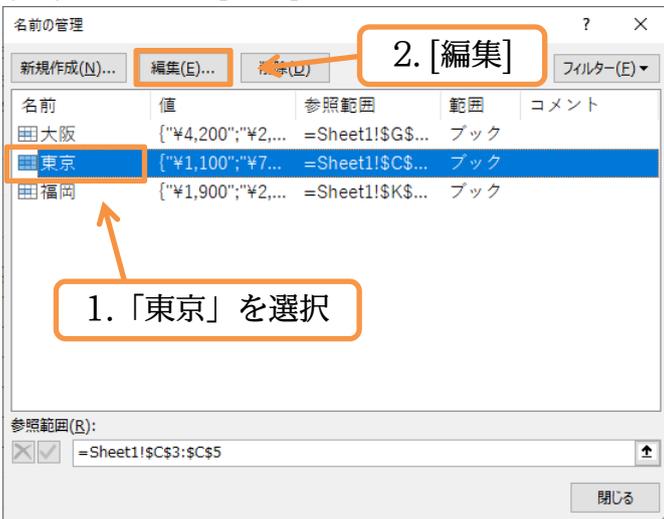
A1														
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	
1														
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合		
3		市川	¥1,100			工藤	¥4,200			馬場	¥1,900			
4		広瀬	¥700			山下	¥2,600			村木	¥2,400			
5		星野	¥5,000			岩瀬	¥1,400			木之下	¥1,800			
6		山川	¥2,500			高野	¥900			熊沢	¥2,500			
7		輪島	¥1,100			江沢	¥3,400			本橋	¥1,900			
8						北岡	¥2,900							
9														
10		東京計	6800			山川	¥2,500			本橋	¥1,900			
11		大阪計	15400			輪島	¥1,100							
12		福岡計	8600											
13														

(02) 範囲名「東京」と「福岡」の範囲(参照範囲)を拡張します。

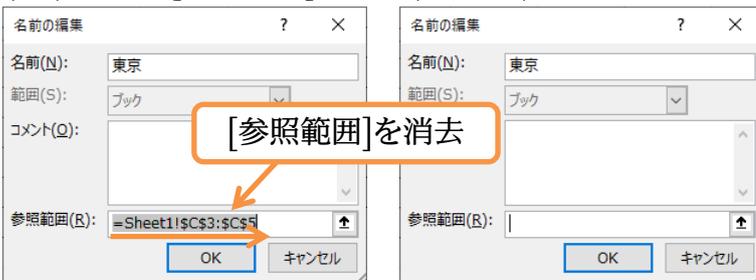
【数式】 タブの[名前の管理]で参照範囲を変更できます。



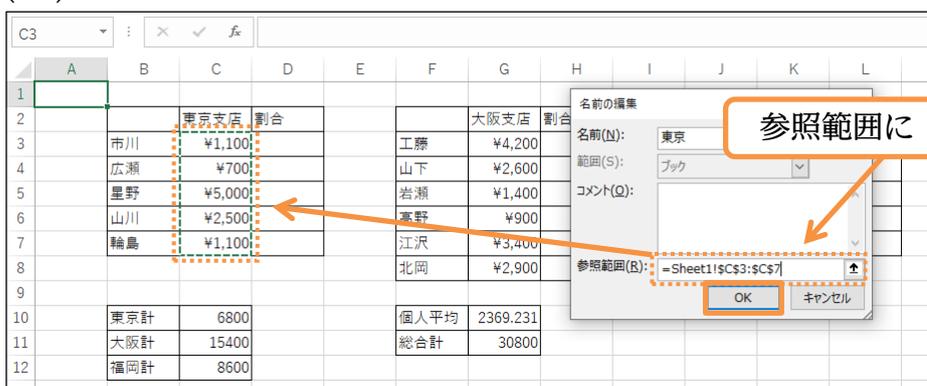
(03) 「東京」を[編集]します。



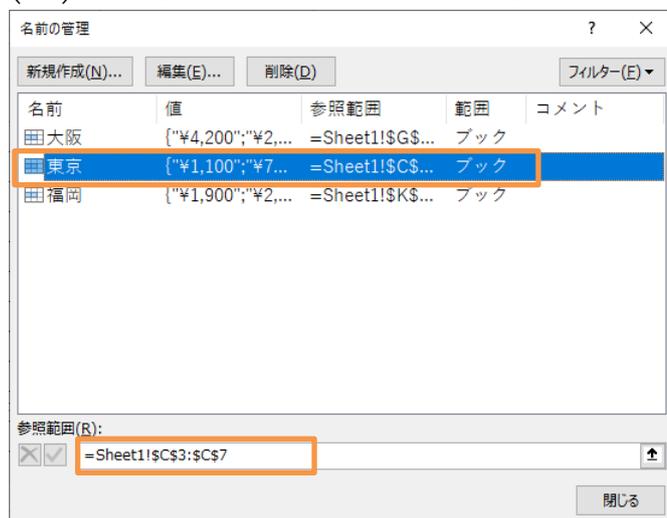
(04) まずは[参照範囲]を消去(Delete)してください。



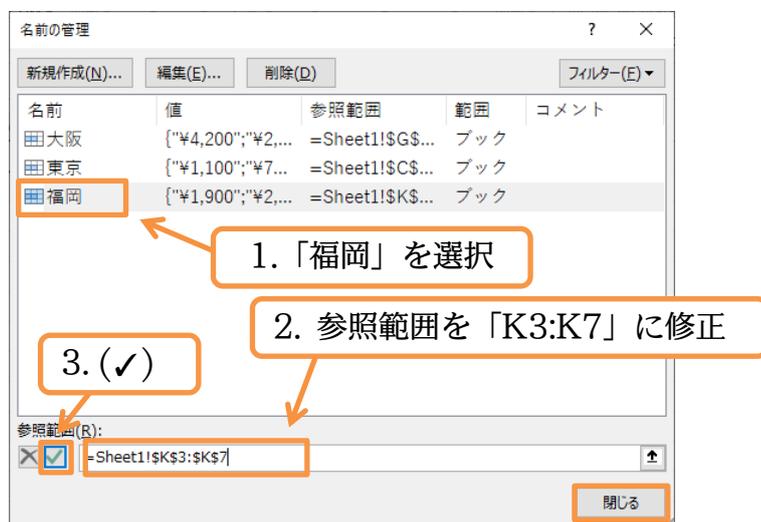
(05) 「C3:C7」を参照範囲に指定してOKします。



(06) 「東京」の参照範囲が「C3:C5」から「C3:C7」になりました。



(07) 今度は「福岡」の参照範囲を「K3:K7」に修正します。この画面からも[参照範囲]を修正できます。画面下のボックスで修正してからチェックボタン(✓)をクリックします。修正が完了したらボックスを閉じます。



(08) 範囲名「東京,福岡」を使っていた計算セルが更新されます(「大阪計」のみ無関係)。

A1	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1												
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合
3		市川	¥1,100			工藤	¥4,200			馬場	¥1,900	
4		広瀬	¥700			山下	¥2,600			村木	¥2,400	
5		星野	¥5,000			岩瀬	¥1,400			木之下	¥1,800	
6		山川	¥2,500			高野	¥900			熊沢	¥2,500	
7		輪島	¥1,100			江沢	¥3,400			本橋	¥1,900	
8						北岡	¥2,900					
9												
10		東京計	10400			個人平均	2268.75					
11		大阪計	15400			総合計	36300					
12		福岡計	10500									
13												

01章06節…範囲名と絶対参照/選択範囲から作成

(01) セル D3 で、「市川」さんの「東京計」内における割合(構成比・1100/10400)を算出します。「=C3/C10」を作成します。

C10		=C3/C10												
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	
1			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合		
2														
3			市川	¥1,100	=C3/C10		工藤	¥4,200			馬場	¥1,900		
4			広瀬	¥700			山下	¥2,600			村木	¥2,400		
5			豊野	¥5,000			岩瀬	¥1,400			木之下	¥1,800		
6			山川	¥2,500										
7			輪島	¥1,100										
8							北岡	¥2,900						
9														
10			東京計	10400			個人平均	2268.75						
11			大阪計	15400			総合計	36300						
12			福岡計	10500										
13														

D3に「=C3/C10」を作成

(02) 表示形式を「%・小数点1桁」にします。またコピーする際には、常にC10と比較させる必要があるため絶対参照の設定をします。

D3		=C3/\$C\$10												
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	
1			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合		
2														
3			市川	¥1,100	10.6%		工藤	¥4,200			馬場	¥1,900		
4			広瀬	¥700			山下	¥2,600			村木	¥2,400		
5			豊野	¥5,000			岩瀬	¥1,400			木之下	¥1,800		
6			山川	¥2,500			高野	¥1,400						
7			輪島	¥1,100			江沢	¥3,400			本橋	¥1,900		
8							北岡	¥2,900						
9														
10			東京計	10400			個人平均	2268.75						
11			大阪計	15400			総合計	36300						
12			福岡計	10500										
13														

D3の表示形式を「%・小数点1桁」に。「=C3/\$C\$10」と絶対参照を設定。

「C\$10」でも可

(03) D3の式をD7までコピーします。

D3		=C3/\$C\$10												
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	
1			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合		
2														
3			市川	¥1,100	10.6%		工藤	¥4,200			馬場	¥1,900		
4			広瀬	¥700	6.7%		山下	¥2,600			村木	¥2,400		
5			豊野	¥5,000	48.1%		岩瀬	¥1,400			木之下	¥1,800		
6			山川	¥2,500	24.0%		高野	¥1,400						
7			輪島	¥1,100	10.6%		江沢	¥3,400			本橋	¥1,900		
8							北岡	¥2,900						
9														
10			東京計	10400			個人平均	2268.75						
11			大阪計	15400			総合計	36300						
12			福岡計	10500										
13														

D3の式をD7までコピー

(04) ここで「C10→東京計」「C11→大阪計」「C12→福岡計」という範囲名を付けます。範囲名にはそれぞれの左のセルのデータ(B列)を利用します。B10:C12 を選択して、【数式】[選択範囲から作成]を使います。入力済みの項目名が範囲名の登録に利用できるのです。

2. 【数式】 [選択範囲から作成]

1. B10:C12 を選択

「範囲名に使いたいセル(項目)」「範囲名を付けるセル」をセットで選択する

(05) 左側の列(B列)を範囲の名前として利用させます。「左端列」にチェックがある状態でOKします。

これで
C10→東京計
C11→大阪計
C12→福岡計
という範囲名が付けられた

01章07節…範囲名と絶対参照の研究

(01) セル H3 に「=G3/大阪計(C11)」の計算式を作成します。「=G3/」まで設定してから、「C11」をクリックしてもよいのですが、範囲名を用いてみます。[数式で使用]から「大阪計」を選択してみましょう。

2. 【数式】 [数式で使用]から「大阪計」を選択

1. セル H3 に「=G3/」を作成

(02) 「C11」も「大阪計」も同じ範囲です。「=G3/大阪計」が完成したら{Enter}か{Shift}+{Enter}(アクティブセルが移動しない)で確定しましょう。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2			東京支店	割合			大阪支店	割合		福岡支店	割合		
3		市川	¥1,100	10.6%		工藤	¥4,200	=G3/大阪計		馬場	¥1,900		
4		広瀬	¥700	6.7%		山下	¥2,600			村木	¥2,400		
5		星野	¥5,000	48.1%		岩瀬	¥1,400			木之下	¥1,800		
6		山川	¥2,500	24.0%		高野	¥900						
7		輪島	¥1,100	10.6%		江沢	¥3,400						
8						北岡	¥2,900						
9													
10		東京計	10400			個人平均	2268.75						
11		大阪計	15400			総合計	36300						
12		福岡計	10500										
13													

{Shift}+{Enter}などで確定

(03) セル H3 の表示形式は下図のように調整します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2			東京支店	割合			大阪支店	割合		福岡支店	割合		
3		市川	¥1,100	10.6%		工藤	¥4,200	27.3%		馬場	¥1,900		
4		広瀬	¥700	6.7%		山下	¥2,600			村木	¥2,400		
5		星野	¥5,000	48.1%		岩瀬	¥1,400			木之下	¥1,800		
6		山川	¥2,500	24.0%		高野	¥900			熊沢	¥2,500		
7		輪島	¥1,100	10.6%		江沢	¥3,400			本橋	¥1,900		
8						北岡	¥2,900						
9													
10		東京計	10400			個人平均	2268.75						
11		大阪計	15400			総合計	36300						
12		福岡計	10500										
13													

セル H3 の表示形式を調整

「4200/15400」→27.3%

(04) これを H8 までコピーしましょう。数式の中で範囲名を使っている場合には、その個所の絶対参照は不要です。必ずその範囲が参照されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2			東京支店	割合			大阪支店	割合		福岡支店	割合		
3		市川	¥1,100	10.6%		工藤	¥4,200	27.3%		馬場	¥1,900		
4		広瀬	¥700	6.7%		山下	¥2,600	16.9%		村木	¥2,400		
5		星野	¥5,000	48.1%		岩瀬	¥1,400	9.1%		木之下	¥1,800		
6		山川	¥2,500	24.0%		高野	¥900	5.8%		熊沢	¥2,500		
7		輪島	¥1,100	10.6%		江沢	¥3,400	22.1%		本橋	¥1,900		
8						北岡	¥2,900	18.8%					
9													
10		東京計	10400			個人平均	2268.75						
11		大阪計	15400			総合計	36300						
12		福岡計	10500										
13													

H3 の式を H8 までコピー

範囲名を使っているので絶対参照は不要

(05) 同様に L 列にも福岡支店の割合(構成比)を出してみましょう。分母である C12 には範囲名が設定されているため絶対参照を考慮する必要はありません。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2			東京支店	割合			大阪支店	割合		福岡支店	割合		
3		市川	¥1,100	10.6%		工藤	¥4,200	27.3%		馬場	¥1,900	18.1%	
4		広瀬	¥700	6.7%		山下	¥2,600	16.9%		村木	¥2,400	22.9%	
5		星野	¥5,000	48.1%		岩瀬	¥1,400	9.1%		木之下	¥1,800	17.1%	
6		山川	¥2,500	24.0%		高野	¥900	5.8%		熊沢	¥2,500	23.8%	
7		輪島	¥1,100	10.6%		江沢	¥3,400	22.1%		本橋	¥1,900	18.1%	
8						北岡	¥2,900	18.8%					
9													
10		東京計	10400			個人平均	2268.75						
11		大阪計	15400			総合計	36300						
12		福岡計	10500										
13													

L3:L7 にも割合(構成比)を出す

01章08節…名前の引用

(01) D3:D7には、各C列の値を「C10」で割った式が入力されています。これらを範囲名「東京計」で割った式に一括で変更してみます(意味は同じ)。名前付き範囲を計算式に使用しているD3:D7を選択してから【数式】タブの[名前の定義][名前の引用]を用います。

2. 【数式】 [名前の定義][名前の引用]

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1														
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合		
3		市川	¥1,100	10.6%		工藤	¥4,200	27.3%		馬場	¥1,900	18.1%		
4		広瀬	¥700	6.7%		山下	¥2,600	16.9%		村木	¥2,400	22.9%		
5		星野	¥5,000	48.1%		岩瀬	¥1,400	9.1%		木之下	¥1,800	17.1%		
6		山川	¥2,500	24.0%		高野	¥900	5.8%		熊沢	¥2,500	23.8%		
7		輪島	¥1,100	10.6%		江沢	¥3,400	22.1%		本橋	¥1,900	18.1%		
8						北岡	¥2,900	18.8%						
9														
10		東京計	10400			個人平均	2268.75							
11		大阪計	15400			総合計	36300							
12		福岡計	10500											
13														

1. D3:D7 を選択

(02) 「C10」を「東京計」に変更します。「東京計」だけを選択した状態にしてOKします。

「東京計」だけを選択した状態に

(03) D3:D7の計算式内にあった「C10」が「東京計」に変わりました。

「=C3/C10」が「C3/東京計」に書き換えられた

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1														
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合		
3		市川	¥1,100	10.6%		工藤	¥4,200	27.3%		馬場	¥1,900	18.1%		
4		広瀬	¥700	6.7%		山下	¥2,600	16.9%		村木	¥2,400	22.9%		
5		星野	¥5,000	48.1%		岩瀬	¥1,400	9.1%		木之下	¥1,800	17.1%		
6		山川	¥2,500	24.0%		高野	¥900	5.8%		熊沢	¥2,500	23.8%		
7		輪島	¥1,100	10.6%		江沢	¥3,400	22.1%		本橋	¥1,900	18.1%		
8						北岡	¥2,900	18.8%						
9														
10		東京計	10400			個人平均	2268.75							
11		大阪計	15400			総合計	36300							
12		福岡計	10500											
13														

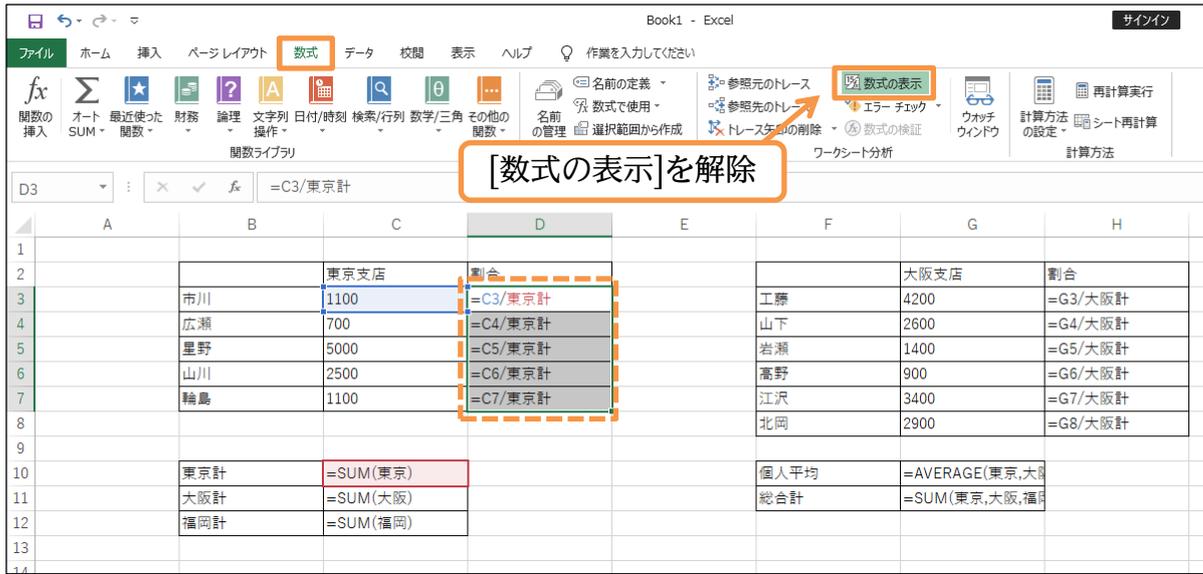
(04) ここですべての計算セルの数式を一括でチェックしてみます。

【数式】タブの[数式の表示]をクリックします。

【数式】 [数式の表示]

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1														
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合		
3		市川	¥1,100	10.6%		工藤	¥4,200	27.3%		馬場	¥1,900	18.1%		
4		広瀬	¥700	6.7%		山下	¥2,600	16.9%		村木	¥2,400	22.9%		
5		星野	¥5,000	48.1%		岩瀬	¥1,400	9.1%		木之下	¥1,800	17.1%		
6		山川	¥2,500	24.0%		高野	¥900	5.8%		熊沢	¥2,500	23.8%		
7		輪島	¥1,100	10.6%		江沢	¥3,400	22.1%		本橋	¥1,900	18.1%		
8						北岡	¥2,900	18.8%						
9														
10		東京計	10400			個人平均	2268.75							
11		大阪計	15400			総合計	36300							
12		福岡計	10500											
13														

(05) すべての計算セルにおいて「計算結果」ではなく「数式」が表示されるようになりました。これを解除して「計算結果」が表示される状態に戻しましょう。



01章09節…複数の範囲を持つ範囲名

(01) 福岡に分店ができました。J9:L11 に以下の表を追加してください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1			東京支店	割合			大阪支店	割合				福岡支店	割合
2		市川	¥1,100	10.6%		工藤	¥4,200	27.3%		馬場	¥1,900	18.1%	
3		広瀬	¥700	6.7%		山下	¥2,600	16.9%		村木	¥2,400	22.9%	
4		豊野	¥5,000	48.1%		岩瀬	¥1,400	9.1%		木之下	¥1,800	17.1%	
5		山川	¥2,500	24.0%		高野	¥900	5.8%		熊沢	¥2,500	23.8%	
6		輪島	¥1,100	10.6%		江沢	¥3,400	22.1%		本橋	¥1,900	18.1%	
7													
8													
9													
10		東京計				福岡分店	高山	¥3,500				福岡分店	高山
11		大阪計					木原	¥2,200					木原
12		福岡計											
13													

(02) 範囲名「福岡」に K10:K11 を追加します。【数式】[名前の管理]を使います。



(03) 「福岡」 を選択してから[参照範囲]の末尾にカーソルを置きます。その状態で{Ctrl}キーを押しながら K10:K11 を選択すると追加登録されます。あとはチェック(✓)をしてからダイアログボックスを閉じましょう。

1. 「福岡」 を選択

2. [参照範囲]で{Ctrl}キーを押しながら K10:K11 を選択し、追加登録

福岡支店	割合
馬場	¥1,900 18.1%
村木	¥2,400 22.9%
木之下	¥1,800 17.1%
熊沢	¥2,500 23.8%
本橋	¥1,900 18.1%
福岡分店	割合
高山	¥3,500
木原	¥2,200

(04) 範囲名「福岡」 を使っていた計算セルの値が更新されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合	
3		市川	¥1,100	10.6%		工藤	¥4,200	27.3%		馬場	¥1,900	11.7%	
4		広瀬	¥700	6.7%		山下	¥2,600	16.9%		村木	¥2,400	14.8%	
5		星野	¥5,000	48.1%		岩瀬	¥1,400	9.1%		木之下	¥1,800	11.1%	
6		山川	¥2,500	24.0%		高野	¥900	5.8%		熊沢	¥2,500	15.4%	
7		輪島	¥1,100	10.6%		江沢	¥3,400	22.1%		本橋	¥1,900	11.7%	
8						北岡	¥2,900	18.8%					
9											福岡分店	割合	
10		東京計	10400			個人平均	2333.333			高山	¥3,500		
11		大阪計	15400			総合計	42000			木原	¥2,200		
12		福岡計	16200										

(05) L10:L11 にも割合(構成比)の計算式を設定しましょう。

完成後はこのファイルは閉じましょう(必要に応じて保存)

L10:L11 にも割合(構成比)の計算式を設定

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2			東京支店	割合			大阪支店	割合			福岡支店	割合	
3		市川	¥1,100	10.6%		工藤	¥4,200	27.3%		馬場	¥1,900	11.7%	
4		広瀬	¥700	6.7%		山下	¥2,600	16.9%		村木	¥2,400	14.8%	
5		星野	¥5,000	48.1%		岩瀬	¥1,400	9.1%		木之下	¥1,800	11.1%	
6		山川	¥2,500	24.0%		高野	¥900	5.8%		熊沢	¥2,500	15.4%	
7		輪島	¥1,100	10.6%		江沢	¥3,400	22.1%		本橋	¥1,900	11.7%	
8						北岡	¥2,900	18.8%					
9											福岡分店	割合	
10		東京計	10400			個人平均	2333.333			高山	¥3,500	21.6%	
11		大阪計	15400			総合計	42000			木原	¥2,200	13.6%	
12		福岡計	16200										

01章10節…まとめ

- ◆ セル範囲に特別な名前を付けることができます。名前を付けた範囲は再選択が容易になります。また集計関数の引数に利用することができます。
- ◆ 計算式内で名前付き範囲を使用すると、自動的に絶対参照の効果を持ちます。

01章11節…練習問題

(01) C4:C12 には「小型台数」・D4:D12 には「小型金額」・F4:F12 には「大型台数」・G4:G12 には「大型金額」という範囲名を設定してください。設定した範囲名を使って K 列に各合計を算出します。

続けて K3 に「小型金額計」・K6 に「大型金額計」という範囲名を設定します。設定した範囲名を使って小型・大型別の金額構成比(各店舗÷全体)を算出します。また「鎌倉店」の情報を追加します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1												
2			小型テレビ			大型テレビ				小型台数計	831	
3			販売台数	販売金額	金額構成比	販売台数	販売金額	金額構成比		小型金額計	¥47,905,000	
4		川崎店	131	¥4,847,000		32	¥5,664,000					
5		横浜店	215	¥18,170,000		84	¥12,600,000			大型台数計	316	
6		戸塚店	187	¥10,285,000		50	¥9,200,000			大型金額計	¥54,762,000	
7		大船店	78	¥3,588,000		52	¥8,580,000					
8		横須賀店	65	¥3,575,000		40	¥8,800,000					
9		藤沢店	155	¥7,440,000		58	¥9,918,000					
10												
11												
12												
13												

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1												
2			小型テレビ			大型テレビ				小型台数計	922	
3			販売台数	販売金額	金額構成比	販売台数	販売金額	金額構成比		小型金額計	¥54,475,000	
4		川崎店	131	¥4,847,000	8.9%	32	¥5,664,000	9.1%				
5		横浜店	215	¥18,170,000	33.4%	84	¥12,600,000	20.1%		大型台数計	364	
6		戸塚店	187	¥10,285,000	18.9%	50	¥9,200,000	14.7%		大型金額計	¥62,579,000	
7		大船店	78	¥3,588,000	6.6%	52	¥8,580,000	13.7%				
8		横須賀店	65	¥3,575,000	6.6%	40	¥8,800,000	14.1%				
9		藤沢店	155	¥7,440,000	13.7%	58	¥9,918,000	15.8%				
10		鎌倉店	91	¥6,570,000	12.1%	48	¥7,817,000	12.5%				
11					0.0%			0.0%				
12					0.0%			0.0%				
13												

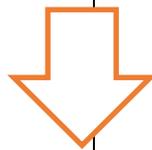
(02) C3:C6 には「東京会員数」・C9:C10 には「千葉会員数」・C13:C16 には「神奈川会員数」という範囲名を付けて計算表を作成します。完成後は右のように「町田」「船橋」「藤沢」を追加・修正します([セルの挿入]を使う)。また 1 店舗あたりの平均会員数も表示させます。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2		店舗	東京会員数		店舗数	会員数		
3		品川	41	東京	4	105		
4		新橋	22	千葉	2	45		
5		目白	7	神奈川	3	127		
6		三田	35					
7								
8		店舗	千葉会員数					
9		成田	15					
10		幕張	30					
11								
12		店舗	神奈川会員数					
13		大船	22					
14		小田原	55					
15		川崎	50					
16								

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2		店舗	東京会員数		店舗数	会員数		
3		品川	41	東京	5	123		
4		新橋	22	千葉	3	93		
5		町田	18	神奈川	4	154		
6		目白	7					
7		三田	35					
8								
9		店舗	千葉会員数					
10		成田	15					
11		船橋	48					
12		幕張	30					
13								
14		店舗	神奈川会員数					
15		大船	22					
16		小田原	55					
17		川崎	50					
18		藤沢	27					
19								

(03)「平均点との差」は「全メンバー・平均点」との差です。絶対参照を使わず、範囲名を有効活用することで下記の計算表を完成させましょう。[平均点との差]の計算は後回しとします。完成後は下のように「三組」のデータを追加します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K							
1																		
2	一組男子				二組男子													
3	No.	名前	得点	平均点との差	No.	名前	得点	平均点との差										
4		1 和泉	65	6.1		1 太田	40	-18.9										
5		2 遠藤	97	38.1		2 佐々木	75	16.1										
6		3 加藤	51	-7.9		3 師岡	54	-4.9										
7		4 坂	14	-44.9														
8																		
9	一組女子				二組女子													
10	No.	名前	得点	平均点との差	No.	名前	得点	平均点との差										
11		1 庄司	61	2.1		1 酒井	69	10.1										
12		2 千葉	41	-17.9		2 星	93	34.1										
13		3 土屋	38	-20.9		3 牛島	55	-3.9										
14						4 荒井	71	12.1										
15																		
16	一組		二組															
17	平均点	52.4	平均点	65.3														
18	最高点	97	最高点	93														
19	最低点	14	最低点	40														
20																		
21	男子		女子		全メンバー													
22	平均点	56.6	平均点	61.1	平均点	58.9												
23	最高点	97	最高点	93	最高点	97												
24	最低点	14	最低点	38	最低点	14												
25																		
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P		
1																		
2	一組男子				二組男子				三組男子									
3	No.	名前	得点	平均点との差	No.	名前	得点	平均点との差	No.	名前	得点	平均点との差						
4		1 和泉	65	5.5		1 太田	40	-19.5		1 井上	49	-10.5						
5		2 遠藤	97	37.5		2 佐々木	75	15.5		2 八木田	75	15.5						
6		3 加藤	51	-8.5		3 師岡	54	-5.5		3 遠山	68	8.5						
7		4 坂	14	-45.5														
8																		
9	一組女子				二組女子				三組女子									
10	No.	名前	得点	平均点との差	No.	名前	得点	平均点との差	No.	名前	得点	平均点との差						
11		1 庄司	61	1.5		1 酒井	69	9.5		1 青木	37	-22.5						
12		2 千葉	41	-18.5		2 星	93	33.5		2 上田	49	-10.5						
13		3 土屋	38	-21.5		3 牛島	55	-4.5		3 島岡	88	28.5						
14						4 荒井	71	11.5										
15																		
16	一組		二組															
17	平均点	52.4	平均点	65.3														
18	最高点	97	最高点	93														
19	最低点	14	最低点	40														
20																		
21	男子		女子		全メンバー													
22	平均点	58.8	平均点	60.2	平均点	59.5												
23	最高点	97	最高点	93	最高点	97												
24	最低点	14	最低点	37	最低点	14												
25																		



第02章:COUNTIF 関数の基本

02章01節…COUNTBLANK 関数の利用

(01) 以下のような表を作成しましょう。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1										
2		売上番号	書籍分類	金額		書籍分類	売上冊数	売上金額	平均単価	
3		1	一般書	¥1,060		雑誌				
4		2	雑誌	¥500		文庫				
5		3	文庫	¥460		漫画				
6		4		¥560		一般書				
7		5	漫画	¥430						
8		6	文庫	¥540						
9		7	文庫	¥470						
10		8		¥540						
11		9	文庫	¥640						
12		10	雑誌	¥210						
13		11	一般書	¥2,050						
14		12		¥340						
15		13	一般書	¥1,740						
16		14	文庫	¥590						
17		15	漫画	¥520						
18										
19		未入力								
20										

(02) C3:C17 にある空白セル数をセル C19 へ表示させます。

空欄を数える関数は「COUNTBLANK」です。

セル C19 をアクティブにして[関数の挿入]をクリックしましょう。

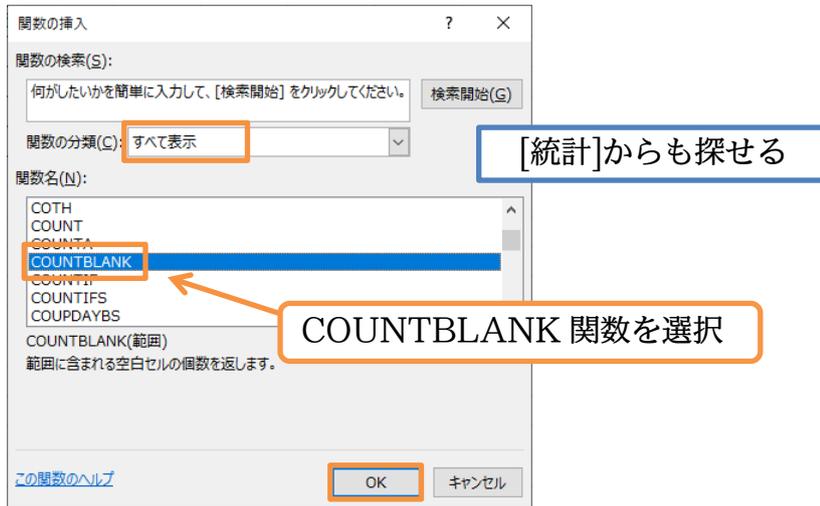
C19

2. [関数の挿入]をクリック

1. C19 をアクティブに

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2		売上番号	書籍分類	金額		書籍分類	売上冊数	売上金額
3		1	一般書	¥1,060		雑誌		
4		2	雑誌	¥500		文庫		
5		3	文庫	¥460		漫画		
6		4		¥560		一般書		
7		5	漫画	¥430				
8		6	文庫	¥540				
9		7	文庫	¥470				
10		8		¥540				
11		9	文庫	¥640				
12		10	雑誌	¥210				
13		11	一般書	¥2,050				
14		12		¥340				
15		13	一般書	¥1,740				
16		14	文庫	¥590				
17		15	漫画	¥520				
18								
19		未入力						
20								

(03) 「COUNTBLANK」関数を選択してください。



(04) 引数[範囲]には調査対象の範囲を指定します。C3:C17を指定・OKしてください。

C3 : X ✓ ✕ =COUNTBLANK(C3:C17)

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1											
2		売上番号	書籍分類	金額		書籍分類	売上冊数	売上金額	平均単価		
3		1	一般書	¥1,060		雑誌					
4		2	雑誌	¥500		文庫					
5		3	文庫	¥460		漫画					
6		4		¥560		一般書					
7		5	漫画	¥430							
8		6	文庫	¥540							
9		7	文庫	¥470							
10		8		¥540							
11		9	文庫	¥640							
12		10	雑誌	¥210							
13		11	一般書	¥2,050							
14		12		¥340							
15		13	一般書	¥1,740							
16		14	文庫	¥590							
17		15	漫画	¥520							
18											
19		未入力	C3:C17								
20											

関数の引数

COUNTBLANK

範囲 **C3:C17** = {"一般書";"雑誌";"文庫";0;"漫画"...}

= 3

範囲に含まれる空白セルの個数を返します。

この関数のヘルプ(H)

OK キャンセル

[範囲]に「C3:C17」を指定

(05) 空白セルが3つ、と数えられました。

C19 : X ✓ ✕ =COUNTBLANK(C3:C17)

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1										
2		売上番号	書籍分類	金額		書籍分類	売上冊数	売上金額	平均単価	
3		1	一般書	¥1,060		雑誌				
4		2	雑誌	¥500		文庫				
5		3	文庫	¥460		漫画				
6		4		¥560		一般書				
7		5	漫画	¥430						
8		6	文庫	¥540						
9		7	文庫	¥470						
10		8		¥540						
11		9	文庫	¥640						
12		10	雑誌	¥210						
13		11	一般書	¥2,050						
14		12		¥340						
15		13	一般書	¥1,740						
16		14	文庫	¥590						
17		15	漫画	¥520						
18										
19		未入力	3							
20										

(06) 以下のように空欄を埋めましょう。空欄がなくなれば C19 は「0」になります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1											
2		売上番号	書籍分類	金額		書籍分類	売上冊数	売上金額	平均単価		
3		1	一般書	¥1,060		雑誌					
4		2	雑誌	¥500		文庫					
5		3	文庫	¥460		漫画					
6		4	漫画	¥560		一般書					
7		5	漫画	¥560							
8		6	文庫	¥540							
9		7	文庫	¥470							
10		8	雑誌	¥540							
11		9	文庫	¥640							
12		10	雑誌	¥210							
13		11	一般書	¥2,050							
14		12	雑誌	¥340							
15		13	一般書	¥1,740							
16		14	文庫	¥590							
17		15	漫画	¥520							
18											
19		未入力		0							
20											

02章02節…COUNTIF 関数の利用

(01) 「雑誌」が何度出現しているかを数えた結果を G3 へ表示させます。使用するのは「COUNTIF」関数です。G3 をアクティブにして[関数の挿入]をクリックしましょう。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2		売上番号	書籍分類	金額		書籍分類	売上冊数	売上金額
3		1	一般書	¥1,060		雑誌		
4		2	雑誌	¥500		文庫		
5		3	文庫	¥460		漫画		
6		4	漫画	¥560		一般書		
7		5	漫画	¥560				
8		6	文庫	¥540				
9		7	文庫	¥470				
10		8	雑誌	¥540				
11		9	文庫	¥640				
12		10	雑誌	¥210				
13		11	一般書	¥2,050				
14		12	雑誌	¥340				
15		13	一般書	¥1,740				
16		14	文庫	¥590				
17		15	漫画	¥520				

(02) 「COUNTIF」関数を選択してください。

関数の挿入

関数の検索(S):

関数の分類(C): すべて表示

関数名(N):

- COUNT
- COUNTA
- COUNTBLANK
- COUNTIF
- COUNTIFS
- COUPDAYBS
- COUPDAYS

COUNTIF(範囲, 検索条件)
指定された範囲に含まれるセルのうち、検索条件に一致するセルの個数を表示します。

[統計]からも探せる

COUNTIF 関数を選択

(03) 引数[範囲]には調査対象の範囲を指定します。C3:C17 を指定してください。

売上番号	書籍分類	金額	書籍分類	売上冊数	売上金額
1	一般書	¥1,060	雑誌		
2	雑誌	¥500	文庫		
3	文庫	¥460	漫画		
4	漫画	¥560	一般書		
5	漫画	¥430			
6	文庫	¥540			
7	文庫	¥470			
8	雑誌	¥540			
9	文庫	¥640			
10	雑誌	¥210			
11	一般書	¥2,050			
12	雑誌	¥340			
13	一般書	¥1,740			
14	文庫	¥590			
15	漫画	¥520			

(04) C3:C17 の中で、どんな値を発見して数えさせるのかを指定する欄が[検索条件]です。「雑誌」の出現数を数えたいので「雑誌」と入力してもよいのですが、コピーすることを考えてセル F3(入力値は"雑誌")を採用します。まだ OK しません。

売上番号	書籍分類	金額	書籍分類	売上冊数	売上金額
1	一般書	¥1,060	雑誌	F3	
2	雑誌	¥500	文庫		
3	文庫	¥460	漫画		
4	漫画	¥560	一般書		
5	漫画	¥430			
6	文庫	¥540			
7	文庫	¥470			
8	雑誌	¥540			
9	文庫	¥640			
10	雑誌	¥210			
11	一般書	¥2,050			
12	雑誌	¥340			
13	一般書	¥1,740			
14	文庫	¥590			
15	漫画	¥520			

(05) この式は、あとで下方向へコピーします。[範囲]はどの書籍分類も同じエリアを使いますので絶対参照する必要があります。選択して{F4}キーを使い絶対参照の設定をしてください。設定後は OK します。

この式は G4~G6 と下へコピーするが、どこでも調査対象(C3:C17)は同じ部分を使う。従って[範囲]は絶対参照する。

[範囲]をドラッグで選択してから{F4}キーを押せば絶対参照される

(06) G3の式をG6までコピーしましょう。

各分類(雑誌・文庫・漫画・一般書)の出現回数が表示されます。

G3		=COUNTIF(\$C\$3:\$C\$17,F3)									
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J		
1											
2	売上番号	書籍分類	金額		書籍分類	売上冊数	売上金額	平均単価			
3	1	一般書	¥1,060		雑誌	4					
4	2	雑誌	¥500		文庫	5					
5	3	文庫	¥460		漫画	3					
6	4	漫画	¥560		一般書	3					
7	5	漫画	¥430								
8	6	文庫	¥540								
9	7	文庫	¥470								
10	8	雑誌	¥540								
11	9	文庫	¥640								
12	10	雑誌	¥210								
13	11	一般書	¥2,050								
14	12	雑誌	¥340								
15	13	一般書	¥1,740								
16	14	文庫	¥590								
17	15	漫画	¥520								

02章03節…COUNTIF 関数とは(概要・かうんと いふ)

指定した範囲内で、特定の値が何回出現したのかを調べる関数です。

[範囲]と[検索条件]の2つの引数が必要です。

COUNTIF 関数の書式

=COUNTIF(範囲,検索条件)

[範囲]内において[検索条件]で指定した値が何回出現したかを調べる。

<引数解説>

範囲:出現回数を調べるセル範囲。

検索条件:どの値の出現回数を調べるのか、を指定する欄。値、もしくはセルを指定する。

	A	B	C	D
1				
2		「経理部」の人数	B3の式	
3			3 =COUNTIF(C6:C15,"経理部")	
4				
5		従業員番号	所属部署	
6		1010	営業部	
7		1011	経理部	
8		1012	技術部	
9		1013	販売部	
10		1014	技術部	
11		1015	経理部	
12		1016	営業部	
13		1017	販売部	
14		1018	技術部	
15		1019	経理部	
16				

例

02章04節…SUMIF 関数

(01) 「雑誌」の「金額を合計」した結果を H3 に表示させます。使用するのは SUMIF 関数です。H3 をアクティブにして[関数の挿入]をクリックしてください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		売上番号	書籍分類	金額		書籍分類	売上冊数	売上金額	平均単価
3		1	一般書	¥1,060		雑誌	4		
4		2	雑誌	¥500		文庫	5		
5		3	文庫	¥460		漫画	3		
6		4	漫画	¥560		一般書	3		
7		5	漫画	¥430					
8		6	文庫	¥540					
9		7	文庫	¥470					
10		8	雑誌	¥540					
11		9	文庫	¥640					
12		10	雑誌	¥210					
13		11	一般書	¥2,050					
14		12	雑誌	¥340					
15		13	一般書	¥1,740					
16		14	文庫	¥590					
17		15	漫画	¥520					

(02) SUMIF 関数を選択してください。

関数の挿入

関数の検索(S):
何がしたいかを簡単に入力して、[検索開始]をクリックしてください。 検索開始(S)

関数の分類(C): すべて表示

関数名(N):

- SUBSTITUTE
- SUBTOTAL
- SUM
- SUMIF**
- SUMIFC
- SUMPRODUCT
- SUMSQ

SUMIF(範囲, 検索条件, 合計範囲)
指定した検索条件に一致するセルの値を合計します

この関数のヘルプ

OK キャンセル

(03) [範囲]には COUNTIF 関数と同じ場所を採用します。C3:C17 を指定します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		売上番号	書籍分類	金額		書籍分類	売上冊数	売上金額	平均単価
3		1	一般書	¥1,060		雑誌	4	C3:C17	
4		2	雑誌	¥500		文庫	5		
5		3	文庫	¥460		漫画	3		
6		4	漫画	¥560		一般書	3		
7		5	漫画	¥430					
8		6	文庫	¥540					
9		7	文庫	¥470					
10		8	雑誌	¥540					
11		9	文庫	¥640					
12		10	雑誌	¥210					
13		11	一般書	¥2,050					
14		12	雑誌	¥340					
15		13	一般書	¥1,740					
16		14	文庫	¥590					
17		15	漫画	¥520					

関数の引数

SUMIF

範囲 C3:C17 = {"一般書";"雑誌";"文庫";"漫画";"..."}

検索条件 = すべて

合計範囲 = 参照

指定した検索条件に一致するセルの値を合計します

範囲 には総を求めたいセル範囲を指定します

数式の結果 =

この関数のヘルプ(H)

OK キャンセル

(04) [検索条件]はあと回しにします。[合計範囲]には[範囲]に対応している合計すべき数値データ群を指定します。[金額]の部分になりますので D3:D17 を指定してください。

[合計範囲]に D3:D17 を指定

売上番号	書籍分類	金額	書籍分類	売上冊数	売上金額	平均単価
1	一般書	¥1,060	雑誌	4	¥5,000	
2	雑誌	¥500	文庫	5		
3	文庫	¥460	漫画	3		
4	漫画	¥560	一般書	3		
5	漫画	¥430				
6	文庫	¥540				
7	文庫	¥470				
8	雑誌	¥540				
9	文庫	¥640				
10	雑誌	¥210				
11	一般書	¥2,050				
12	雑誌	¥340				
13	一般書	¥1,740				
14	文庫	¥590				
15	漫画	¥520				

[範囲]と[合計範囲]はサイズが同じになる。
[範囲]から「雑誌」を発見したらそれに対応する[合計範囲]のセルを集めて合計させる予定。

(05) [検索条件]は何の合計をするのかを指定する個所です。「雑誌」と入力してもよいのですが式を下へコピーすることを考え「F3」を指定します。

[検索条件]には「F3」を指定

売上番号	書籍分類	金額	書籍分類	売上冊数	売上金額	平均単価
1	一般書	¥1,060	雑誌	4	¥5,000	
2	雑誌	¥500	文庫	5		
3	文庫	¥460	漫画	3		
4	漫画	¥560	一般書	3		
5	漫画	¥430				
6	文庫	¥540				
7	文庫	¥470				
8	雑誌	¥540				
9	文庫	¥640				
10	雑誌	¥210				
11	一般書	¥2,050				
12	雑誌	¥340				
13	一般書	¥1,740				
14	文庫	¥590				
15	漫画	¥520				

(06) この式を下へコピーすることを考え[範囲]と[合計範囲]は絶対参照します。完成後は OK します。

[範囲]と[合計範囲]に絶対参照

引数に「範囲」とあったら[絶対参照]を検討しよう

(07) H3 の式を H6 までコピーしましょう。

雑誌・文庫・漫画・一般書の売上金額が合計されます。

=SUMIF(\$C\$3:\$C\$17,F3,\$D\$3:\$D\$17)										
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1										
2	売上番号	書籍分類	金額		書籍分類	売上冊数	売上金額	平均単価		
3	1	一般書	¥1,060		雑誌	4	1590			
4	2	雑誌	¥500		文庫	5	2700			
5	3	文庫	¥460		漫画	3	1510			
6	4	漫画	¥560		一般書	3	4850			
7	5	漫画	¥430							
8	6	文庫	¥540							
9	7	文庫	¥470							
10	8	雑誌	¥540							
11	9	文庫	¥640							
12	10	雑誌	¥210							
13	11	一般書	¥2,050							
14	12	雑誌	¥340							
15	13	一般書	¥1,740							
16	14	文庫	¥590							
17	15	漫画	¥520							

02章05節…SUMIF 関数とは(概要・さむいふ)

指定した範囲内で、特定の値が持っている数値を合計する関数です。

[範囲]と[検索条件][合計範囲]の 3 つの引数が必要です。

SUMIF 関数の書式

=SUMIF(範囲,検索条件,合計範囲)

[範囲]内において[検索条件]で指定した値を発見し、発見したら各[範囲]に対応する[合計範囲]を合計する。

<引数解説>

範囲: [検索条件]で指定する値が存在するかどうかを調べる範囲。

検索条件: どの値の出現を調べるのか、を指定する欄。値、もしくはセルを指定する。

合計範囲: [範囲]に対応する、合計すべき数値群が入力された範囲。[範囲]と同じ大きさの領域。

A	B	C	D	E
1				
2		「プリンター」の出荷数	B3の式	
3		14	=SUMIF(C6:C15,"プリンター",D6:D15)	
4				
5	出荷日	出荷商品	出荷数	
6	4月2日	デジタルカメラ	8	
7	4月2日	スキャナー	9	
8	4月3日	プリンター	6	
9	4月3日	ノートPC	7	
10	4月3日	スキャナー	6	
11	4月3日	デジタルカメラ	5	
12	4月5日	デスクトップPC	2	
13	4月5日	ノートPC	9	
14	4月6日	プリンター	8	
15	4月6日	ノートPC	5	
16				

例

02章06節…AVERAGEIF 関数

(01) 次へ進む前に G 列と H 列を非表示にします。選択して【ホーム】[書式][非表示/再表示]より[列を表示しない]の設定をしましょう。

1. G 列と H 列を選択

2. 【ホーム】[書式][非表示/再表示][列を表示しない]

売上番号	書籍分類	金額	書籍分類	売上冊数	売上金額	平均単価
1	一般書	¥1,060	雑誌	4	1590	
2	雑誌	¥500	文庫	5	2700	
3	文庫	¥460	漫画	3	1510	
4	漫画	¥560	一般書	3	4850	
5	漫画	¥430				
6	文庫	¥560				
9	文庫	¥640				
10	雑誌	¥210				

(02) さて「AVERAGEIF」関数は、指定した範囲内で特定の値が持っている数値を平均する関数です。SUMIF 関数と使い方は同じです。I 列に各分類の平均単価を算出します。

1. I3 をアクティブに

2. [関数の挿入]をクリック

売上番号	書籍分類	金額	書籍分類	平均単価
1			雑誌	
2			文庫	
3			漫画	
4			一般書	
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				

(03) AVERAGEIF 関数を選択してください。

AVERAGEIF 関数を選択

関数の検索(S):	関数の分類(C):	関数名(N):
何がしたいかを簡単に入力して、[検索開始]をクリックしてください。	すべて表示	AVEDEV AVERAGE AVERAGEIF AVERAGEIFS BAHTTEXT BASE AVERAGEIF(範囲,条件,平均対象範囲) 特定の条件に一致する数値の平均 (算術平均)

(04) 「雑誌」の平均単価が算出されるよう設定します。

なお[範囲][平均対象範囲]は下へコピーすることを考えて絶対参照します。

関数の引数
AVERAGEIF
範囲 \$C\$3:\$C\$17 = {"一般書";"雑誌";"文庫";"漫画";"漫画"}
条件 F3 = "雑誌"
平均対象範囲 \$D\$3:\$D\$17 = {1060;500;460;560;430;540;470;540;640;210}
特定の条件に一致する数値の平均 (算術平均) を計算します
平均対象範囲 には、実際に平均を求めるのに使用するセルを指定します。省略した場合、範囲内のセルが使用されます
数式の結果 = 397.5

[範囲]は「C3:C17」・[条件]は「F3」・[平均対象範囲]は「D3:D17」。
[範囲][平均対象範囲]は絶対参照。

(05) I3の式はI6までコピーしてください。桁の表示は小数点1桁に調整します。

完成後はこのファイルは閉じます(必要に応じて保存)。

売上番号	書籍分類	金額	書籍分類	平均単価
1	一般書	¥1,060	雑誌	397.5
2	雑誌	¥500	文庫	540.0
3	文庫	¥460	漫画	503.3
4	漫画	¥560	一般書	1616.7
5	漫画	¥430		
6	文庫	¥540		
7	文庫	¥470		
8	雑誌	¥540		
9	文庫	¥640		
10	雑誌	¥210		
11	一般書	¥2,050		
12	雑誌	¥340		
13	一般書	¥1,740		
14	文庫	¥590		
15	漫画	¥520		

02章07節・・・練習問題

(01) 各担当者の営業成績を求めましょう。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		日付	担当	売上金額		金額未入力		3	件
3		2018/11/19	田原	¥350,000					
4		2018/11/19	森嶋	¥273,000		集計期間			
5		2018/11/25	湯川	¥425,000		2018/11/19	~	2019/2/26	
6		2018/11/26	有吉	¥408,000					
7		2018/12/1	森嶋			担当	売上件数	売上金額	
8		2018/12/14	森嶋	¥94,000		有吉	7	¥2,274,000	
9		2018/12/18	有吉	¥84,000		森嶋	5	¥934,000	
10		2018/12/26	田原	¥389,000		湯川	4	¥908,000	
11		2018/12/28	湯川	¥173,000		田原	3	¥1,091,000	
12		2018/12/30	有吉						
13		2019/1/7	湯川	¥209,000					
14		2019/1/15	有吉	¥510,000					
15		2019/1/20	森嶋						
16		2019/1/23	田原	¥352,000					
17		2019/1/25	森嶋	¥567,000					
18		2019/1/29	有吉	¥509,000					
19		2019/2/19	有吉	¥472,000					
20		2019/2/22	湯川	¥101,000					
21		2019/2/26	有吉	¥291,000					
22									

(02) 明細を項目ごとに集計してください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1											
2		日付	借方	借方金額	貸方	貸方金額		借方金額	項目	貸方金額	
3		2月28日	現金	¥90,000	売上	¥90,000		¥347,000	現金	¥181,000	
4		2月28日	仕入	¥132,000	前払金	¥30,000		¥257,000	受取手形	¥286,000	
5					買掛金	¥92,000		¥149,000	売掛金	¥243,000	
6					現金	¥10,000		¥380,000	当座	¥111,000	
7		3月1日	現金	¥50,000	未収金	¥50,000		¥0	未収金	¥115,000	
8		3月2日	仕入	¥80,000	買掛金	¥80,000		¥36,000	支払手形	¥38,000	
9		3月2日	買掛金	¥75,000	当座	¥75,000		¥121,000	買掛金	¥250,000	
10		3月3日	当座	¥96,000	売上	¥96,000		¥0	売上	¥582,000	
11		3月4日	支払手形	¥36,000	当座	¥36,000		¥546,000	仕入	¥0	
12		3月5日	受取手形	¥105,000	売上	¥105,000		¥0	前払金	¥30,000	
13		3月5日	売掛金	¥72,000	売上	¥72,000		¥1,836,000	合計	¥1,836,000	
14		3月5日	仕入	¥38,000	支払手形	¥38,000					
15		3月6日	仕入	¥78,000	買掛金	¥78,000					
16		3月7日	現金	¥95,000	売掛金	¥95,000					
17		3月8日	当座	¥81,000	受取手形	¥81,000					
18		3月8日	買掛金	¥46,000	現金	¥46,000					
19		3月8日	当座	¥148,000	売掛金	¥148,000					
20		3月9日	受取手形	¥87,000	売上	¥87,000					
21		3月10日	受取手形	¥65,000	未収金	¥65,000					
22		3月11日	仕入	¥93,000	受取手形	¥93,000					
23		3月11日	現金	¥112,000	受取手形	¥112,000					
24		3月12日	当座	¥55,000	売上	¥55,000					
25		3月13日	仕入	¥125,000	現金	¥125,000					
26		3月13日	売掛金	¥77,000	売上	¥77,000					
27											

(03) ジャンルごとに売上を集計してください。その後[販売数][売上金額]の集計列を隠し、右に[1冊あたり単価](平均価格)を集計する列を追加してください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1										
2		売上ID	ジャンル	販売価格			販売数	売上金額		
3		1	洋書	¥1,470		和書	5	¥7,860		
4		2	専門書	¥3,130		洋書	7	¥9,180		
5		3	洋書	¥1,390		専門書	3	¥11,700		
6		4	児童書	¥1,320		児童書	5	¥5,980		
7		5	洋書	¥960		学習書	4	¥5,120		
8		6	和書	¥1,350		写真集	2	¥7,990		
9		7	写真集	¥4,900						
10		8	児童書	¥1,100						
11		9	学習書	¥1,540						
12		10	和書	¥1,950						
13		11	学習書	¥740						
14		12	学習書	¥1,710						
15		13	児童書	¥1,240						
16		14	専門書	¥4,550						
17		15	洋書	¥1,500						
18		16	和書	¥1,400						
19		17	児童書	¥1,270						
20		18	専門書	¥4,020						
21		19	和書	¥1,150						
22		20	写真集	¥3,090						
23		21	洋書	¥1,450						
24		22	洋書	¥980						
25		23	和書	¥2,010						
26		24	洋書	¥1,430						
27		25	児童書	¥1,050						
28		26	学習書	¥1,130						
29										

(加工前)

	A	B	C	D	E	F	I	J
1								
2		売上ID	ジャンル	販売価格			1冊あたり単価	
3		1	洋書	¥1,470		和書	¥1,572	
4		2	専門書	¥3,130		洋書	¥1,311	
5		3	洋書	¥1,390		専門書	¥3,900	
6		4	児童書	¥1,320		児童書	¥1,196	
7		5	洋書	¥960		学習書	¥1,280	
8		6	和書	¥1,350		写真集	¥3,995	
9		7	写真集	¥4,900				
10		8	児童書	¥1,100				
11		9	学習書	¥1,540				
12		10	和書	¥1,950				
13		11	学習書	¥740				
14		12	学習書	¥1,710				
15		13	児童書	¥1,240				
16		14	専門書	¥4,550				
17		15	洋書	¥1,500				
18		16	和書	¥1,400				
19		17	児童書	¥1,270				
20		18	専門書	¥4,020				
21		19	和書	¥1,150				
22		20	写真集	¥3,090				
23		21	洋書	¥1,450				
24		22	洋書	¥980				
25		23	和書	¥2,010				
26		24	洋書	¥1,430				
27		25	児童書	¥1,050				
28		26	学習書	¥1,130				
29								

(加工後)

第03章:VLOOKUP 関数・1 [近似値検索]

03章01節…VLOOKUP 関数の構想・ある値から別の値の割り出し

以下のような表を作成しましょう。

	A	B	C	D	E	F																																
1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>スコア</th> <th>ランク</th> <th>コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>四谷</td> <td>67</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>神崎</td> <td>88</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中田</td> <td>91</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>佐々岡</td> <td>55</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>大下</td> <td>86</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>野本</td> <td>75</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>木村</td> <td>97</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						氏名	スコア	ランク	コメント	四谷	67			神崎	88			中田	91			佐々岡	55			大下	86			野本	75			木村	97		
氏名							スコア	ランク	コメント																													
四谷							67																															
神崎							88																															
中田							91																															
佐々岡							55																															
大下							86																															
野本							75																															
木村							97																															
2																																						
3																																						
4																																						
5																																						
6																																						
7																																						
8																																						
9																																						
10																																						

これから下表を参考に、[スコア]に応じて[ランク]や[コメント]を付けます。この処理を IF 関数で完成させるのは大変です。このようにある数値に対応したデータを自動で表示させるには「VLOOKUP」関数を用います(ふい るっくあっぷ)。VLOOKUP 関数を使うには別の場所に対応表が必要です。

ランク	スコア	コメント
S	90~∞	大変よくできました
A	80~90	よくできました
B	70~80	あともう少し
C	60~70	がんばろう
D	0~60	まだまだ

階級が少なければ IF 関数でも対応できる

(←VLOOKUP 関数を使ってランクなどを表示させる)

[スコア]より[ランク]や[コメント]を割り出します。この時[スコア]を「検索値」「キー」とよびます。「検索値」と「対応表」を使ってグループを割り出します。その際、対応表は「検索値」と同じ種類のものが左に配置され、かつ昇順(小さい順)に並んでいる必要があります。

スコア	ランク	コメント
0~60	D	まだまだ
60~70	C	がんばろう
70~80	B	あともう少し
80~90	A	よくできました
90~∞	S	大変よくできました

スコア(キー)⇒ランク・コメント

(スコアが左に配置され、昇順になっている必要がある)

なお対応表の左の列(スコア)は「数値のみ・最小値のみ」にします。この表があれば、[スコア]より[ランク]や[コメント]を割り出すという作業ができるようになります。

次にこの表を追加して実際に関数を作成してみます。

スコア	ランク	コメント
0	D	まだまだ
60	C	がんばろう
70	B	あともう少し
80	A	よくできました
90	S	大変よくできました

(実際には先頭行の項目名はなくてもよい)

VLOOKUP 関数を使って、各人の[スコア]から[ランク]や[コメント]を調べます。そこで対応表を作っておく必要があります。G2 から I7 に以下のような表を追加作成しましょう。対応表作成の注意点を確認します。[スコア]を使って調査をするので[スコア]が一番左の列になり、かつ昇順(小さい順)になるようにすることです。2行目の項目名はなくてもかまいません。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1										
2		氏名	スコア	ランク	コメント		スコア	コメント		ランク
3		四谷	67				0	まだまだ		D
4		神崎	88				60	がんばろう		C
5		中田	91				70	あともう少し		B
6		佐々岡	55				80	よくできました		A
7		大下	86				90	大変よくできました		S
8		野本	75							
9		木村	97							
10										

追加!

03章02節…VLOOKUP 関数の使用

(01) 各人の「スコア」から「ランク」を調査した結果を D 列に表示させます。

最初は四谷さんのランクを表示させます。

D3 をアクティブにして[関数の挿入]をクリックしてください。

(02) 「VLOOKUP」関数を選択してください。

(03) ここでは[範囲]から考えます。項目を除いて対応表をすべて指定します。
「G3:I7」を指定してください。

VLOOKUP 関数の引数

VLOOKUP

検索値: = すべて

範囲: G3:I7 = {0,"まだまだ","D";60,"がんばろう","C";70,"あともう少し","B";80,"よくできました","A";90,"大変よくできました","S"}

列番号: = 数値

検索方法: = 論理

指定された範囲の 1 列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。テーブルは昇順で並べ替えておく必要があります。

検索値 には範囲の先頭列で検索する値を指定します。検索値には、値、セル参照、または文字列を指定します。

OK キャンセル

VLOOKUP 関数の[範囲]に項目行(2行目)は含めない

(04) 今から「四谷さんのスコアの」「ランク」を対応表から調べます。
この「〇〇の」に対応するセルを指定する欄が「検索値」(キー)です。
四谷さんのスコアが入力されているセル C3 を指定してください。

VLOOKUP 関数の引数

VLOOKUP

検索値: C3 = 67

範囲: G3:I7 = {0,"まだまだ","D";60,"がんばろう","C";70,"あともう少し","B";80,"よくできました","A";90,"大変よくできました","S"}

列番号: = 数値

検索方法: = 論理

指定された範囲の 1 列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。テーブルは昇順で並べ替えておく必要があります。

検索値 には範囲の先頭列で検索する値を指定します。検索値には、値、セル参照、または文字列を指定します。

OK キャンセル

[検索値]に C3 を指定

この作業で四谷さんのスコア「67」は対応表の 2 行目に該当する (60 以上~70 未満)と認識された

「四谷さんのスコア(67)」から「ランク」を調べる・[スコア]→[ランク]

(05) 最後に[列番号]を指定します。「ランク」を式の結果として表示させます。その「ランク」に該当する値は[範囲]で指定した参照表の左から何列目にあるか、を[列番号]に指定します。「3」列目ですので「3」を指定します。これで完成です。

VLOOKUP 関数の引数

VLOOKUP

検索値: C3 = 67

範囲: G3:I7 = {0,"まだまだ","D";60,"がんばろう","C";70,"あともう少し","B";80,"よくできました","A";90,"大変よくできました","S"}

列番号: 3 = 3

検索方法: = 論理

指定された範囲の 1 列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。テーブルは昇順で並べ替えておく必要があります。

検索値 には範囲の先頭列で検索する値を指定します。検索値には、値、セル参照、または文字列を指定します。

範囲の先頭列には 1 を指定します。

数式の結果 = C

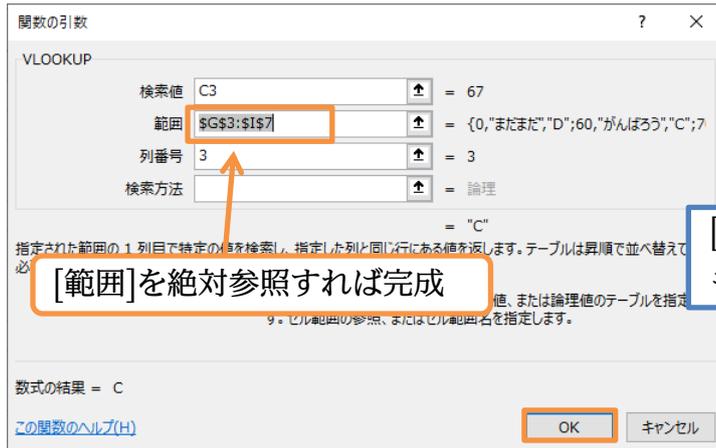
この関数のヘルプ(H)

OK キャンセル

[列番号]に「3」を指定

「ランク」は対応表の左から 3 列目にある

(06) あとでこの式は下方向へコピーします。[範囲]はどの人も同じエリアを使うので絶対参照する必要があります。選択して[F4]キーを使い絶対参照の設定をしてください。これで完成です。OK してください。[検索方法]は「TRUE」と入れてもよいのですが省略できます。



[範囲]をドラッグで選択してから[F4]キーを押せば絶対参照される

(07) D3 に作成された式を D9 までコピーしましょう。四谷さんのスコア「67」（60 以上 70 未満）は対応表の 2 行目に該当しています。その行の「3 列目」が結果になるので「C」と表示されているわけです。なおスコアが「90～∞」の人は最終行の「S」ランク扱いとなっています。

D3 : =VLOOKUP(C3,\$G\$3:\$I\$7,3)									
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1									
2		氏名	スコア	ランク	コメント	スコア	コメント	ランク	
3		四谷	67	C		0	まだまだ	D	
4		神崎	88	A		60	がんばろう	C	
5		中田	91	S		70	あともう少し	B	
6		佐々岡	55	D		80	よくできました	A	
7		大下	86	A		90	大変よくできました	S	
8		野本	75	B					
9		木村	97	S					
10									

「スコア」から「ランク」を割り出した

03章03節…作成の復習

(01) E 列に「コメント」を表示させる式を立てます。

E3 をアクティブにして VLOOKUP 関数の作成を開始してください。

「スコア」から「コメント」を割り出そう

2. VLOOKUP 関数の作成を開始

(02) 「スコア」から「コメント」を割り出せるように設定しましょう。[検索値]は四谷さんのスコアの「C3」・範囲は「G3:I7」で絶対参照します。[列番号]は対応表の左から何列目のデータを表示させるのか、を指定する欄です。「コメント」を表示するので「2」を指定します。今回は[検索方法]に「TRUE」を入れます。設定後はOKしましょう。

氏名	スコア	ランク	コメント	スコア	コメント	ランク
四谷	67	C	がんばろう	0	まだまだ	D
神崎	88	A	よくできました	60	がんばろう	C
中田	91	S	大変よくできました	70	あともう少し	B
佐々岡	55	D	まだまだ	80	よくできました	A
大下	86	A	よくできました	90	大変よくできました	S
野本	75	B	あともう少し			
木村	97	S	大変よくできました			

関数の引数
VLOOKUP
検索値 C3 = 67
範囲 \$G\$3:\$I\$7 = {0,"まだまだ","D";60,"がんばろう","C";70,"あともう少し","B";80,"よくできました","A";90,"大変よくできました","S"}
列番号 2 = 2
検索方法 true = TRUE
指定された範囲の1列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。テーブルは昇順で並べ替えておく必要があります。
検索方法 には検索値と完全に一致する値だけを検索するか、その近似値を含めて検索するかを、論理値 (近似値を含めて検索 = TRUE または省略、完全一致の値を検索 = FALSE) で指定します。
数式の結果 = がんばろう

「TRUE」は[半角]で入力。小文字でもよい。

VLOOKUP 関数を選び、[検索値]は「C3」・範囲は「G3:I7」で絶対参照・[列番号]は「2」。[検索方法]に「TRUE」を指定。

(03) E3 の式を 9 行目までコピーしましょう。列幅は適当に調整してください。[検索方法]に「TRUE」を指定しても省略した場合と同じ結果になります。なお「TRUE」の逆は「FALSE」です。これに関してはのちの章で学習します。ここでは対応表からデータを調査・検索する VLOOKUP 関数について学習しました。完成後はこのファイルを閉じましょう(必要に応じて保存)。

氏名	スコア	ランク	コメント	スコア	コメント	ランク
四谷	67	C	がんばろう	0	まだ	
神崎	88	A	よくできました	60	がんば	
中田	91	S	大変よくできました	70	あと	
佐々岡	55	D	まだまだ	80	よく	
大下	86	A	よくできました	90	大変	
野本	75	B	あともう少し			
木村	97	S	大変よくできました			

「TRUE」は[半角]ならば小文字/大文字を問わない。
しかし省略すれば「TRUE」扱いになるのでそれでよいだろう。

03章04節…VLOOKUP 関数とは(概要・ぶい るつくあつぶ)

VLOOKUP 関数とは、事前に作成済みの対応表において指定する値が何行目に属していると言えるのか、を調べてくれる関数です。

[検索値][範囲][列番号]の3つの引数が必要です。引数[検索方法]は省略可能です。

VLOOKUP 関数の書式(近似値検索)

=VLOOKUP(検索値,範囲,列番号,検索方法)

…[検索値]で指定した値は[範囲]の何行目に属するかを検索し、発見したらその行の[列番号]で指定された列にある値を表示させる。

<引数解説>

検索値:[範囲]で指定した対応表の一番左の列と比較させる値・またはセル。VLOOKUP 関数はこの値が対応表の何行目に属するかを調べる関数である。

範囲:対応表となる範囲。この範囲は後述のルールに基づいて作成する必要がある。

列番号:[検索値]は[範囲]において、何行目に属しているかを発見したあと、その行の左から何列目を結果として表示させるのか、を数値で指定する欄。

検索方法:ここで学習する「近似値検索」においては省略。

<対応表作成の注意>

→対応の基準となる列(キー列)は一番左の列に作る

→対応表の一番左の列を基準として昇順に並んでいること

→予想される値の最小値が一番上の行に採用されていること

→[150以上 300未満]の条件を指定する際は「150」のように最小値の数字だけを入力する

	A	B	C	D	E	F
1						
2			結果	C列の式		
3		あなたのポイント	450			
4		賞	ハッピー賞	=VLOOKUP(C3,B8:D12,2)		
5		副賞	商品券	=VLOOKUP(C3,B8:D12,3)		
6						
7		獲得ポイント	賞の名前	副賞	意味	
8		0	参加賞	お菓子	0以上150未満	
9		150	特別賞	ペンケース	150以上300未満	
10		300	ハッピー賞	商品券	300以上500未満	
11		500	スペシャル賞	国内旅行	500以上800未満	
12		800	グレート賞	海外旅行	800以上~∞	
13						

例

03章05節…練習問題

(01) H:J 列の対応表を先に作成します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1											
2		開催番号	講座番号	開催日	担当者	講座名		講座番号	講座名	担当者	
3		10001	2	2月27日	神崎	フランス語入門		1	基礎英語	四谷	
4		10002	1	2月28日	四谷	基礎英語		2	フランス語入門	神崎	
5		10003	6	3月5日	野本	ビジネスフランス語		3	ビジネス英語	中田	
6		10004	3	3月10日	中田	ビジネス英語		4	ビジネス英会話	佐々岡	
7		10005	6	3月12日	野本	ビジネスフランス語		5	はじめてのドイツ語	大下	
8		10006	5	3月20日	大下	はじめてのドイツ語		6	ビジネスフランス語	野本	
9		10007	3	3月29日	中田	ビジネス英語					
10		10008	1	4月16日	四谷	基礎英語					
11		10009	6	5月14日	野本	ビジネスフランス語					
12		10010	4	5月17日	佐々岡	ビジネス英会話					
13		10011	2	5月27日	神崎	フランス語入門					
14		10012	6	6月20日	野本	ビジネスフランス語					
15		10013	5	7月6日	大下	はじめてのドイツ語					
16		10014	3	7月14日	中田	ビジネス英語					
17		10015	6	8月10日	野本	ビジネスフランス語					
18		10016	2	8月26日	神崎	フランス語入門					
19											

(02) 以下の条件で各人の結果にランク付けをしてください。対応表の作成方法に注意します。対応表は好きな場所に作成してください。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2		受験者	国語	英語	数学	合計	ランク	
3		四谷	76	96	86	258	B	
4		神崎	69	93	74	236	D	
5		中田	89	72	95	256	B	
6		佐々岡	78	70	73	221	E	
7		大下	74	81	72	227	E	
8		野本	81	93	94	268	A	
9		木村	78	89	75	242	C	
10								

合計	ランク
0 ~230未満	E
230 ~240未満	D
240 ~250未満	C
250 ~260未満	B
260 ~300	A